

第1回鎌ヶ谷市廃棄物減量等推進審議会 会議録

開催日時 平成21年7月27日(月) 午前10時00分から午前11時30分

開催場所 総合福祉保健センター4階会議室

委員出席者 和田光誉、伊藤勝、菅野勝利、山口純子、指簾和子、倉田智子、吉野良一、磯野澄人(欠席者:石毛雅夫、小茂田茂)

(以上敬称略)

事務局出席者 稲生哲彌(市民生活部次長(事)クリーン推進課長)、佐山佳明(クリーン推進課副主幹(事)計画管理係長)、里見秀晴(クリーン推進課主事)

1 会議の公開について

「鎌ヶ谷市廃棄物減量等推進審議会の傍聴に関する基準」に基づき公開する旨確認

2 議事

①会長の選出

A委員:事務局に確認

事務局:学識経験者の伊藤委員を推薦

委員一同:賛成

(決定事項)

○会長、伊藤委員に決定する。

伊藤会長あいさつ

②副会長の選出

会長:事務局に確認

事務局:慣例に基づき菅野委員を推薦

委員一同:賛成

(決定事項)

○副会長、菅野委員に決定する。

菅野副会長あいさつ

3 報告事項

①分別名称について

- ・平成21年2月に開催された審議会において答申を受けた「プラスチック製容器包装ごみ」を「プラスチック製容器包装類」に、「資源ごみ」を「資源になるもの」に分別名称を変更すること、汚れたプラスチック製容器包装類の出し方に関して、その後の柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合との協議経過等を事務局から報告。
- ・分別名称の変更については問題なし。
- ・汚れたプラスチック製容器包装類の出し方は答申内容で問題なし。
- ・袋の色の変更に関しては、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合内及び柏市と協議中で結論が出ていない。引き続き協議していきたい。
- ・袋の名称についてはすぐに変更したいが、新たな袋の生産は止めてあるが在庫が

半年以上分あることから、新しい袋が市場に出るのはその後となる。

A委員：柏市との協議ということだが、旧沼南エリアのことか。

事務局：そうです。

A委員：柏市はやがて「しらさぎ」から脱けるつもりで焼却場を建設している。そこでの協議や、半年分の在庫などといっていると時機を逸してしまう。早急に結論をもらえるよう要望して欲しい。

事務局：本田柏市長は、平成20年3月議会で、ごみの焼却を3工場体制で実施していく旨の答弁をしており、現行では「しらさぎ」から脱けることを考えていないとのこと。

A委員：柏市は「しらさぎ」から脱けることを条件に合併を進めた、2工場で焼却し、白井市と鎌ヶ谷市には迷惑をかけないと聞いた。どこで変わったのか。旧沼南よりエリアは増えていないのか。負担金とかも変わっていないのか。

事務局：変わっていない。

A委員：ともかく鎌ヶ谷市は全量焼却できる焼却炉を持っていないのだから、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合議員には、緊急に会議を開いてもらって、壊れたときのことなどの前後策について、しっかり協議してもらいたい。鎌ヶ谷市民の感情を考えて速やかに善処して欲しい。出来ないなら出来ない理由を文書化して明確にして欲しい。

会長：この問題は、ごみの減量、リサイクルに関わるので、本委員会から何らかの文書を出すことは出来ないだろうか。

B委員：その会議に市民は出ていないのか、焼却場の建設の時だけに出ていたと思うが。

C委員：基本計画策定の時に、本会議から2人出ていたが、いつの間にか無くなった。当該会議の中で発言したがそれに関する回答は一切無かった。

D委員：説明にあった在庫というのは、メーカーにあるということか、メーカーは何社在るのか。

事務局：在庫はメーカーにある。メーカーは許可を出しているもので4社だが、製造しているのは3社。

D委員：在庫があっても新しいものを使うとした場合、幾らかを支払うということはあるのか。

事務局：それはないと考えるが、どうしてくれるんだ位は言われると思う。

D委員：A委員の言ったとおりずるずる引っ張っていつてしまう可能性が在るか心配される。

B委員：沼南と鎌ヶ谷市は収集を一緒に行っているわけではないので、鎌ヶ谷市だけ変えてしまったらどうか。こういう機会に一斉に変えた方が市民としては、一時的に混乱するが後々楽である。

C委員：事務局としては、柏市と統一したいのか。

事務局：柏市との統一は考えていない。

C委員：色の話で、カラスは生ごみを襲うが、柏市はプラスチック製容器包装類の袋が黄色と言うことから、合わせる必要はないと感じた。

C委員：プラスチック製容器包装類に汚れたものが多いと説明されたが、鎌ヶ谷市では炉を傷めないために徹底してプラスチックを分別していた時代があった。周辺では汚れたものは燃やしていたが、鎌ヶ谷市ではプラスチックとして扱っていた。お年寄りが多いとラップなど汚れていてもプラスチック製容器包装類に入れてしまうのではないか。

B委員：今の袋の製造は止めて欲しい。

事務局：止めている。

事務局：柏市、旧沼南と鎌ヶ谷市で一部事務組合を設立して、一つの役所としてごみ処理を行っている。その中で制度が異なっていることが好ましくない状況。この話が進むと、「しらさぎ」を工場化して、それぞれ事務を戻せと言うことになる。計画から収集運搬、許認可まで市で行うには、柏市は体制が整っているが、鎌ヶ谷市では受け入れ態勢が整っていないので、強くいえない。

A委員：要はクリーンセンターで安全に分別できればいいわけだ。鎌ヶ谷市は、比較的うまく分別されている。キャップをはずし、きちんとネットに入れられている。だが、柏や白井がちゃんと分別されていないから、回収したりするという事なのか。

事務局：現在は、プラスチック製容器包装類の処理は、別々に行っている。将来的には一緒にやっていきたい。一緒になったときに色が違うと話がおかしくなる。一緒にやらないということになると、一部事務組合として成り立たなくなる。

B委員：焼却炉もどこまで延命できるか、それでも柏市と一緒にやっていくのか、長期的な検討を行った上で、リサイクルも一緒にやっていくのだとしたら、分別マナーを徹底させないと。

A委員：とりあえず諸々の問題点、袋の色やリサイクルのやり方、鎌ヶ谷だけがリサイクルセンターで、一方は専門業者で行っていることについて、柏はリサイクルしていない。

事務局：旧沼南の分もリサイクルしている。環境衛生組合で別のところに発注している。

A委員：その辺の統一の見解を、要望書を出して、それぞれが行っている内容を、収集して資源化する、三市の組合の中で頻繁に協議して、我々で行政の方向性を示すことは出来ない、三市の組合議員が調査して、問題点を我々に示して意見を聞いてもらった方が、行政対行政は代表者同士で話した方が話は進む、今でた意見等を取りまとめて会長名で要望書といいますかね。

会 長：一部事務組合、地方公共団体に対して我々が意見を言うことはできない、出された結論に対して、鎌ヶ谷市の委員としてこの審議会として最善を尽くしたいので、一部事務組合の方でしっかりとした方針を出していただけないかと程度は要望できるのではと、問題はないのではと思うので、言っていただけないか。

A委員：文面は、会長と調整して、相手の感情を害さない程度に。それで方針を示してもらわないと、我々は何を審議したらいいのか。

A委員：この委員会の中で理想論を出して行政にぶつけても、行政としても通らないだろうから、その辺の議論を三市でまめに実施して欲しい。何十万という三市の市民全体のために

B委員：ごみに関しては、二市です。

事務局：そう、二市、鎌ヶ谷市にとっては柏市が脱けていかない方向で話を持って行かないと、大きなデメリットを被る。20年第一回の定例会で柏市長は当面の間、三工場体制で行くと言っているので、しばらくはこの方向で話を進めていくのが。

A委員：柏としても余計なお金を使いたくないということ。

事務局：柏市は、内部からも二工場体制の声が上がっている。三工場の方がお金がかかるのだから。だが、本田市長は三工場でやっていこうと言っている。鎌ヶ谷市にとっては非常にありがたい話である。

A委員：柏が脱けると鎌ヶ谷市としてその分収入が減ると。

事務局：鎌ヶ谷市にしてみればスケールメリットが出ている。なかなか文書を出すとい

うのは。

B委員：そうですね、柏市が脱けたとしても炉は少しは保つだろうけど、維持費はかかるかもしれませんが、ただ「しらさぎ」の土地は柏市ですよ。

事務局：自区内処理と言うことから考えれば非常に問題がある。

A委員：3分の1くらい鎌ヶ谷では。

B委員：全部柏市。

A委員：全部。

B委員：リサイクルセンターを柏市と一緒にやらなければいけないのか。

事務局：そういうことではないが。

A委員：リサイクルセンターは独自で行っていいのでは。

事務局：現在は、鎌ヶ谷市にごみに関する事務はない。その部分だけ戻すと言うことになると、柏市では二工場体制にとわれていることから、柏市から全部戻してはどうかと提案される可能性がある。そのことから、鎌ヶ谷市から言い出すことは得策ではないと考える。

A委員：そうすると、市内で改めて焼却場を設置することになるのか。いまは建屋を賃して家賃を取っているような状態なのに。

事務局：立場的には、別々にやると言い出すのは非常によろしくない。

会 長：新しい焼却場を建設するのは、非常に大変であろう。

B委員：そういうことなら、袋の色は時間がかかると思うので、リサイクルセンターでのプラスチック製容器包装類の質の向上、市民が分別をきちんとやっていくことしかないのか。

B委員：汚れたプラスチックを燃やすごみへということは、まだ浸透していない。広報でも見ていない。もう少し宣伝して欲しい。それから、リサイクルセンターでは以前ベルトコンベアに人が多くいたと思っていたが、Dランクをとったときは2人だけ、それでは、あの早く移動するものに対応できないと感じた。維持費を削減するための結果かと、機械を改修するのでもいいが、そここのところの改善も。

会 長：では、手を引かれるのも困ることなので、袋の名前だけは変えていただければと言うことで。あとは市民の分別を向上させると言うことで、柏市と流山市のプラスチックの処理体制を見たことがあるが、分別の悪い流山市は6人体制で、分別のいい柏市は3人体制だった。市民の分別が向上すれば、ところでベルトコンベアは長くならないのか。

事務局：若干長くなる。

C委員：市民の分別に関する勉強会を開けないか。環境課で水をきれいに流す、簡単に行える方法に関する講座を開いた。待っているのではなく積極的に出かけていかないと、良くはなっていない。

E委員：子ども会育成会が良く開催されるが、その中で分別に関する質問が出され、パンフレットを見ながら確認している。全部の奥さんが熟知しているわけではないので、勉強会を開いて欲しい。

事務局：声をかけていただければ、何時でも出向いて説明させていただく。若干日程調整を要するときもあるが、是非声をかけていただきたい。今も年に数回行っているし、必要であれば日曜日等でもかまわない。

B委員：分別の方法は少しずつ変わってきているので、ベテランの人でも判らないこともある。

E委員：分別の判らない人に、分別のパンフレットを渡すことはできないのか。

事務局：できます。

- A委員：分別パンフレットを、小中学校PTAに協力いただいて配布できるのでは。繰り返し、繰り返し配って、分別に関して各家庭で覚えてもらえば。何回も行っていく内に自然と覚えていくものだ。
- 会 長：それでは、袋に関して名称は直す、色に関しては穏やかに行くと言うことで。プラスチック製容器包装類の中に、汚れたものは入れないと言うことだが、人によって感じ方は違うし、実際に説明しないと判らない。広報とかで実際の状況について、PRしていただきたい。
- B委員：基本計画はできているのだが、実施計画が動いていないことに不満がある。庭の木を切るときに、業者を頼めば多額の費用がかかるし、庭に埋めて土に思っても埋めるだけのスペースもないし、燃やすごみとして出していくと大量で大変である。一時、木をチップにしていたが、今はそれもやっていない。たい肥化できる場所を作って欲しい。
- C委員：市内に二重川という多自然型の河川があってボランティアで草刈りをしたときに、市に連絡するとリサイクルセンターが取りに来て、たい肥としてリサイクルしてくれる。某団地の管理組合の人に言われたのだが、大きな袋ができたときに、それまでは大きい箱に刈った草とかを入れてきて袋に入れ直していたが、大きい箱のまま袋に入れて出せばと、なるほどと思ったのだが、だけどやはりたい肥かできたと思う。
- 会 長：木はチップにできるが、葉っぱには石が混じっているのだから、たい肥かはしていない。大学では、東京から通っている学生もいるし、流山市から通っている学生もいる。その学生にごみを出させると、東京ではプラスチック製容器包装類は燃やせるごみに、流山市ではプラスチック製容器包装類で出しているのが実状で。
- 会 長：議事録を残していただき、今回のたい肥化の件、実施計画を実行に移していただきたい。

②鎌ヶ谷市の現状

・事務局から資料に基づき説明

- B委員：「しらすぎ」の灯油使用量が平成14年から増えているが。
- 事務局：灯油に関しては、運転開始時の昇温時に使用するわけだが、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の改正により野焼きが禁止となってから、草等が多くなったため、夏を中心に2炉運転だったものが3炉運転になり、また運転日数も増えることを余儀なくされたため、灯油が増えた。
- B委員：生ごみのリサイクルで、テレビを見ていたら機械式ではなく手回し式の物があった。この手の物に対しても補助金が出るようにして欲しい。
- C委員：雇用対策で、今回ステーションの調査を実施すると聞いたが、以前にも実施したと思うが、その結果は公表しているか。
- 事務局：2000年に実施したが、ごみステーションの現状把握と電子化するための調査である。以前に調査したが、位置がずれているものもあるし、使用者の確認や、新鎌ヶ谷のように町の形態が大きく異なったため地図情報の更新などを行う。
- C委員：有価物のステーションも調査するのだろうか、有価物ステーションで迷惑している。それは壁際にある日突然断りもなく設置された有価物ステーションであり、大きな道路に出て行くところにあるため、夜中に段ボールが置かれたりして、放

火されたらと心配している。このように、どう見てもおかしいステーションなども調べて、改善指導して欲しい。

事務局：ステーションの電子化を進める際に、ごみステーションで約3200箇所、有価物ステーションで約700箇所、環境美化運動のステーションが約200箇所所在る。調査をし、現状把握をした中で、そのようなステーションに関しては協議していきたい。

4 その他

議 長：その他事務局あるか。

事務局：会議録署名人を、基準により山口委員にお願いしたい。

会 長：山口委員お願いします。

本日の会議はこれにて終了します。ご協力ありがとうございました。

以 上

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証明するため、次に署名する。

平成27年 8月 2/日

氏 名 山口純子